

会 議 録

1 会議名

令和2年度第4回安塚区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○協 議（公開）

（1）令和2年度上越市地域活動支援事業（安塚区）【追加募集分】について

ア プレゼンテーション及び質疑応答

イ 個人審査（採点）

ウ 全体審査（採択の可否、補助金額の決定）

○その他（公開）

3 開催日時

令和2年7月21日（火）午後7時から午後9時20分まで

4 開催場所

安塚コミュニティプラザ 3階 大会議室

5 傍聴人の数

3人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：池田裕夫、池田康雄、石田ひとみ、小松光代、新保良一、中村真二

外立正剛、秦克博、松苗正二、松野修、山岸重正、吉野誠一

・事務局：安塚区総合事務所 岩野所長、大橋次長、石川市民生活・福祉グループ長（併

教育・文化グループ長）、村松班長、萬羽主事

8 発言の内容（要旨）

【大橋次長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【松苗正二会長】

・挨拶

【大橋次長】

本日の会議録の確認は、内規により松苗正二会長にお願いする。

条例第8条第1項の規定により、松苗正二会長から議長を務めていただく。

【松苗正二会長】

3 協議事項（1）令和2年度上越市地域活動支援事業（安塚区）【追加募集分】について、事務局に説明を求める。

【萬羽主事】

資料「令和2年度 地域活動支援事業提案書受付一覧【追加募集分】」に基づき、提案書の受付状況を報告したうえで、プレゼンテーション及び審査方法について説明。

【松苗正二会長】

プレゼンテーション及び審査方法について、事務局から説明があったが、何か質問等あるか。

（質問なし）

それでは、これから提案団体によるプレゼンテーションを開始する。

最初は「歩こう・竹の子の会」提案の『菱里地域の宝ものを伝えよう』についてのプレゼンテーションである。

（歩こう・竹の子の会入室）

【歩こう・竹の子の会】

『菱里地域の宝ものを伝えよう』の事業提案書に基づき、事業内容を説明。

【松苗正二会長】

事業内容について、説明があったが、何か質問等あるか。

【新保良一委員】

本事業は上越市「地域の宝」認定制度に申請を予定している事業であるか。

【歩こう・竹の子の会】

上越市「地域の宝」認定制度の申請は予定していない。

【新保良一委員】

マップ作製後に地域の方などを募集し、実際に歩いてみるイベントのようなものは予定しているか。

【歩こう・竹の子の会】

1、2時間程度のコースを設定し、秋頃に地域の方と歩いてみたいと考えている。

【新保良一委員】

健康づくりという面も考えると、年1回では少ないと感じるため、もう少し歩くイベントの回数を増やしてはどうか。

【歩こう・竹の子の会】

個人で歩くことが好きな方や気の合う仲間と歩くことが好きな方、それぞれ好みがあり、みんなで歩くイベントの形式が必ずしも適しているとは考えていない。地域内の住民だけではなく、地域外から来られる方にも活用いただけるマップを作製していきたい。

【新保良一委員】

マップ作製のほかに看板の設置などは考えているか。

【歩こう・竹の子の会】

冬季に撤去が必要となることから、看板の設置は予定していない。簡単に設置・撤去が可能な簡易的なパネルなどをイベント時のみ設置したいと考えているが、詳細については現在検討中である。

【外立正剛委員】

事業提案書に記載されている次年度以降の活動見通しについて、他の団体と連携した地域イベントの実践とは具体的にどのようなものと考えているか教えてもらいたい。また、本事業では宝ものを紹介する資料とマップは別々に作製することになるのか。

【歩こう・竹の子の会】

他の団体と連携した地域イベントとしては、既に当初募集で採択を受けている「手づくり百人協同組合」と連携したイベントの実施を検討している。また、現在は新型コロナウイルス感染症の影響で実施されていないが、越後田舎体験で安塚へ来る子どもたちのトレッキングコースとしての活用も検討している。

資料とマップについては、できれば1枚にまとめることとし、表面が地図、裏面が史跡等の案内資料という形で作製を検討している。案内資料の量が増加し、1枚にまとめることが困難となった場合は、別冊の資料集として作製することとしたい。

【外立正剛委員】

須川、伏野方面は本事業の対象に含まれないのか。

【歩こう・竹の子の会】

須川・伏野方面は対象に含まれない。菱里地区ということで、旧菱里小学校の区域を対象として考えている。

【小松光代委員】

マップ完成後、市外の人に対してのPR方法やマップの配布場所はどのように考えているか。

【歩こう・竹の子の会】

マップの配布場所は安塚コミュニティプラザや雪だるま物産館などを考えている。また、インターネット上でも見られるようにホームページ等にも掲載したいと考えている。

【吉野誠一委員】

高齢化率などを踏まえ、作製するマップがどの程度普及すると想定しているか、お聞きしたい。観光客などは別として、日常的に地域住民にマップがどれだけ活用されるかが一番重要であると感じている。

【歩こう・竹の子の会】

高齢化が進行しているが、主にリバーサイドを利用して歩いている方は一定数いらっしゃる。山手の方は歩く環境が整っていない部分もあるが、歩くことが健康増進に繋がるため、少しでも多く歩いてもらうことと、地域の自慢を皆さんから情報発信していただくことを目的として本事業を実施したいと考えている。

【松苗正二会長】

最後に1点確認させていただく。今回補助希望額が20万円となっているが、減額となった場合でも事業は実施する予定であるか。

【歩こう・竹の子の会】

減額となった場合でも実施する予定である。

【松苗正二会長】

時間になったので、これで「歩こう・竹の子の会」のプレゼンテーションを終了とする。

(歩こう・竹の子の会退室)

続いて「山のうへの雪まつり実行委員会」提案の『山のうへの雪まつり事業』についてのプレゼンテーションである。

(山のうへの雪まつり実行委員会入室)

【山のうへの雪まつり実行委員会】

『山のうへの雪まつり事業』の事業提案書に基づき、事業内容を説明。

【中村真二委員】

イベントのキーワードとして「リベンジ」という言葉を掲げているが、日本人はポジティブな意味として捉えている一方で、元々の言葉の意味としてはネガティブな印象が強い。気にしすぎかもしれないが、外国の方が耳にしたときに悪い印象を受ける可能性もあるため、その点について少し検討いただければと思う。

【山のうへの雪まつり実行委員会】

「リベンジ」という言葉は使い方が難しい面もあるが、昨年度スカイランタンの打ち上げが叶わず大変悔しい思いをしている。今年度スカイランタンの打ち上げにリベンジしたいという思いと新しいスキー場を発信していきたいという考えを念頭に置いて、事業を実施していきたい。

【中村真二委員】

個人的な考えではあるが、もし可能であれば「リベンジ」はカタカナ表記として、英語表記では外国の方からもより前向きな印象を持ってもらえる言葉で表現してもらえるとよいと思う。今年度インバウンドの面では難しく、気にしすぎかと思うが、外国の方が悪い印象を持たないか心配になったため、意見を述べさせてもらった。

【山のうへの雪まつり実行委員会】

参考にさせていただく。

【小松光代委員】

毎年灯の回廊（安塚キャンドルロード）の開催にあわせて、キューピットバレイスキー場で色々なイベントを企画していただき、若い方が頑張っていて非常に心強く感じている。今年度もこの企画を成功させてもらいたいと思っている。

スカイランタンの打ち上げについてお聞きしたい。昨年度までの課題として「全てのランタンへの点火に時間を要し、風景の演出ができなかった」点が挙げられている。この点について、今年度実施するうえで何か対策等は検討しているか。

【山のうへの雪まつり実行委員会】

課題として挙げているのは、平成30年度に実施した際の反省点である。昨年度、地域活動支援事業費補助金を活用し、スカイランタンの備品としてガスバーナーを購入した。昨年度は強風のため、打ち上げ中止となったが、そのガスバーナーを使用して今年

度打ち上げを行う予定である。また、ランタンを打ち上げるための工夫があり、事業実施当初は勉強不足な面もあったが、現在はマニュアルも作成しているため、そのマニュアルに基づき実施する。ランタンは風に弱く、冬のスキー場ということで天候が一番ネックとなっているが、なんとか成功させたいと考えている。

【小松光代委員】

天候に左右される面もあり、大変だと思うが、素晴らしいスカイランタンの打ち上げを見させていただければと思っている。

【新保良一委員】

私も本事業について貴団体が一生懸命取り組まれている姿を拝見しており、キューピットバレイスキー場を核とした事業であることから集客効果は抜群であると感じている。

キューピットバレイスキー場は今年度夏営業をしないということであるが、通常は通年営業で年間を通して集客効果が見込まれる施設である。

本事業はコロナ禍により今年度規模を縮小して実施するというところで、大変残念だと思っている。手筒花火について、また実施する予定はあるか、お聞きしたい。

【山のうへの雪まつり実行委員会】

手筒花火については、これまで2年間実施してきた中で定着してきた部分もあると感じている。しかし、コロナ禍でソーシャルディスタンスの確保が求められている中、2月の時点で新型コロナウイルスの感染拡大が収束しているという確証を持つことはできない状況である。手筒花火は臨場感を味わおうと観客が近くに寄ってきてしまう傾向があり、ソーシャルディスタンスの確保が困難であることから、今年度は手筒花火ではなく、打ち上げ花火の方に注力していきたい。様々なイベントが中止となっており、打ち上げ花火の演出により集客効果も期待できると考えている。

今後ワクチンの開発が進み、感染拡大が収束に向かうのであれば、クラウドファンディング等を活用して手筒花火を実施したいという希望も少し持っているところである。

【新保良一委員】

今後機会があれば手筒花火を実施するという前提で2点お聞きしたい。

1点目として、貴団体も耳にしているかもしれないが、手筒花火はセンターグレンデの平らな低い部分で行うため、煙や人込みでよく見えないとの意見もあると思う。その点について、どのようにして改善を図るのかお聞きしたい。

次に2点目として、手筒花火の後にセンターグレンデが真っ黒になってしまうという

問題がある。雪が多いときは圧雪車等で灰を除去して対応できるが、昨年度のような少雪の場合にどういった対応を検討しているのかお聞きしたい。

【山のうへの雪まつり実行委員会】

1点目については、昨年度も検討させていただいたところであったが、昨年度は何年に一度という大変な少雪であり、本当に雪がない状態での開催であった。そのため、我々のイメージ通りとはいかない部分もあったが、平成30年度の時よりも位置を少しずらすなどの対策を実施した。しかし、どうしても音と演出を近くで見たいと思うような花火であり、観客との距離に関して、安全に配慮しながらもぎりぎりまで近くで見たいと検討した結果、昨年度の実施方法についてはあれが限界であったと感じている。今年度もし手筒花火を実施するのであれば、上手く演出できるよう雪の量等も考慮したうえで検討していきたいと考えている。

次に2点目の雪の上の汚れ等についてであるが、防災シートやコンパネで対応できるのではないかという意見もあったので、それらの方法を検討していきたいと考えている。

【吉野誠一委員】

現在新型コロナウイルス感染拡大の影響で、どこの花火大会も全て中止になっている。そういった状況も踏まえたうえで、貴団体は絶対に感染者を出さないという自信をもって事業を実施するのか、お聞きしたい。また、爆発的な流行が発生するのではないかと懸念されている中で、クラウドファンディングの実施や協賛金の募集、SNSやポスターを活用した宣伝といった取組みは県をまたいでどんどん来てほしいと言っているようなもので、現状からすると少し非常識ではないか。観客の社会的距離をどのように確保するのか、検温体制をどうするのか、発熱者が出た場合に保健所とどのように連携をとるのかなど、どこまで話を詰めたうえで事業の実施を検討しているのか疑問に感じる。私は今年度の実施は無理であると思う。むしろ状況を見て、新型コロナウイルスの感染が収束した後にみんなでどうやってキューピットバレイスキー場を盛り上げていくのかを考えるべきではないか。人を集めるという仕組みはどこかに無理があるのではないか、責任はとれるのか、それらの点について心配しているが、いかがか。

【山のうへの雪まつり実行委員会】

この新型コロナウイルスの問題が発生後、私も様々なことを考えさせていただいている。上越市へも確認する中で、灯の回廊は現段階で中止とはなっていないという話を聞いており、それに合わせていきたいと考えている。今年度の実施内容として、打ち上げ

花火をメインとしている理由も、打ち上げ花火であれば車の中からでも見ることはできるのではないかと考えてのことである。駐車場にある程度の台数の車を停めて、その中から花火を見ていただくことができる。そのような方法、集客をイメージして、打ち上げ花火であれば実施できるのではないかと考え、企画をさせていただいている。打ち上げ花火以外の内容については、今後の状況次第で実施できるかどうかは不透明である。上越市が灯の回廊を中止することとなった場合には、足並みを揃え、本事業の中止もやむを得ないと思っている。

【吉野誠一委員】

善意の気持ちを持って、みんなで力を合わせてキューピットバレイスキー場を盛り上げていこうという想いは皆一緒である。しかし、時期を考えたときに今で本当に良いのか、深く考えなければいけないと思う。

もし感染者が1人でも出てしまった場合、スキー場は当然一定期間閉鎖となり、そのダメージは大変大きなものとなる。

クラウドファンディングで資金を集め、県をまたいで人が来るような仕組みを作ってしまうと大変なことになると私は思っている。その点をどれだけ深く考えているのか、お聞きしたい。

【山のうへの雪まつり実行委員会】

おっしゃる通りであるが、上越市が灯の回廊を実施するのであれば本事業も実施する、中止するのであれば本事業も中止するといった方針を持っている。

【吉野誠一委員】

採択した場合はどうになってしまうのか。中止となった場合、補助金は返還となるのか。

【松苗正二会長】

今は提案者に対して質問をする時間である。提案者に対してする質問と委員の中で議論するものとは、内容が異なるため、今の点については後ほどお願いしたい。

【吉野誠一委員】

承知した。質問は以上である。

【松苗正二会長】

時間になったので、これで「山のうへの雪まつり実行委員会」のプレゼンテーションを終了とする。

(山のうへの雪まつり実行委員会退室)

以上で提案団体によるプレゼンテーションを終了とする。引き続き、個人審査として採点票の記入に移る。これから10分ほど時間をとるので、先ほどのプレゼンテーションを踏まえ、各自採点票の記入をお願いしたい。

(採点票記入)

【松苗正二会長】

採点票の記入にまだ時間が必要な者はいるか。

(「なし」の声あり)

それでは、事務局に採点票の回収をお願いします。

(事務局採点票を回収)

これから事務局が採点票の集計を行うため、集計作業の間、20分ほど休憩時間とする。

(事務局採点票集計)

【松苗正二会長】

事務局による採点票の集計作業が完了したので、採点結果について、事務局から報告をお願いします。

【萬羽主事】

資料「令和2年度安塚区地域活動支援事業採点結果一覧【追加募集分】」に基づき、提案事業に対する採点の集計結果を報告。

【松苗正二会長】

今ほど事務局から報告のあった採点結果を踏まえ、2つの提案事業について、順番に採択の可否、補助金額の決定、附帯意見の有無をそれぞれ協議していく。

まず、事業No. 1「歩こう・竹の子の会」提案の『菱里地域の宝ものを伝えよう』について、協議を行う。平均点が17.5点、事業費20万円に対して、補助希望額が20万円である。採択の可否について、採択でよろしいか。

(「はい」の声多数)

補助金額についてはいかがか。

(「補助希望額全額でよい」との声多数)

附帯意見についてはいかがか。

(「なしでよい」との声多数)

次に事業No. 2「山のうへの雪まつり実行委員会」提案の『山のうへの雪まつり事業』について、協議を行う。平均点が17.5点、事業費200万円に対して、補助希望額が93万円である。採択の可否について、採択でよろしいか。

【吉野誠一委員】

新型コロナウイルスの問題を考えると、本事業を採択し、何か起こった場合に「安塚区の地域協議会は何をやっているんだ」との謗りは免れない。この問題については、皆さんから厳しい目で検討していただければと思う。

【松苗正二会長】

吉野委員から新型コロナウイルスの問題について、どうするのかという御意見があったが、皆さんの御意見を伺いたい。

【山岸重正委員】

私も本事業について、反対するわけではないが、吉野委員が言われたように今回は一度時期を見送ってほしいと考え、採点を行った。吉野委員の意見に同感である。

【松苗正二会長】

山岸委員からも同様の御意見が出されたが、ほかに御意見はあるか。

【中村真二委員】

私の意見としては、本事業について採択をしたうえで、市が主催する灯の回廊と関連するため、灯の回廊を実施するかどうかという市の判断を踏まえて、本事業を実施するかどうかを改めて判断してもらえばよいと考える。

【山岸重正委員】

そのようなことが可能なのか。

【吉野誠一委員】

屋台の出店や福男という何名かでグレンデを駆け上がるイベントも計画されているようである。息を吐きながら山の上に向かって走っていくわけで、まさにそれは密の最たるものであると思う。事業の計画が少し雑ではないかと感じている。

事業の実施に至るまでには色々な関連団体との協議が必要になる。市の観光交流推進課と協議を行うとなっているが、(株)スマイルリゾートとも協議が必要になるであろうし、

考えてみれば施設を借用できなければ事業は実施できない。

もし、これがクラウドファンディングによって県をまたいで資金が集まってくるようになると、大変大きな問題となる。観客のコントロールができるのか。車の中に入れてくださいと言っても、センターハウスに入りたいという人も出てくるかもしれない。その一方でゲレンデを駆け上がる福男レースを開催すれば、みんな外に出てくるはずである。そういった点で計画が少し雑ではないかと思う。スキー場を守っていきたいという想いはみんな一緒であるが、現状の新型コロナウイルスの問題や日本における自粛ムードの中で今年度は時期を選ぶべきではないか。地域協議会の良心でそのことを言う必要があると私は思っている。

【松苗正二会長】

吉野委員から御意見があったが、ほかに御意見はあるか。

【小松光代委員】

吉野委員の言われたように新型コロナウイルスがこの先どうなるかは私たちには全く分からない。ワクチンができるという話もあれば、できないという話もあり、その辺りは私たちの想像を遥かに超えた問題である。

市の観光交流推進課が担当課ということで、提案団体は観光交流推進課と協議されたと思う。先ほど中村委員の意見にもあったように、市が主催する灯の回廊は、地元の人だけではなく、色々な人から観光で上越市にきてもらおうという意図でこれまで実施してきたと思う。

先の見えない問題で心配であることは確かであるが、市が灯の回廊を実施しない場合は本事業も実施しないということで、それ以上誰が責任をとるんだという責任論になると、今までの地域活動支援事業の採択全て責任問題となり、どうしていいか分からない。この先どうなるかは誰にも予想がつかず、先の見えない問題であるので、ここで責任論を出して議論するのではなく、もう少し広い視野で考えた方が良いと思う。

【松苗正二会長】

他に御意見はあるか。

【山岸重正委員】

小松委員から責任という話があったが、やはり責任はあると思う。責任という点も考えて判断していくのが、私たち地域協議会委員の仕事であると思っている。

【外立正剛委員】

今年度これまで採択してきた8事業の審査において、新型コロナウイルスの問題がある中で人を集めることを内容とする事業についても採択してきた。本事業でも、屋台や福男レースについて、コロナの影響で実施しない場合もあると事業提案書にきちんと記載されている。責任論などを持ち出してしまうと、これまで採択してきた事業との整合性がとれないと思う。

採択をしたうえで、市が灯の回廊を実施しない場合は本事業も実施しないという方針を定めてもらい、状況に応じて新型コロナウイルス感染防止のため花火を打ち上げるのみとするなど、対応してもらえればよいのではないかと。

【吉野誠一委員】

私は責任どころという話ではなく、「安塚区の地域協議会はどうなっているんだ」と言われかねないということを心配していた。少なくとも条例上は意思を決定する会であり、必要としたことを申し上げたいと思っている。

また市が実施する場合は本事業も実施する、実施しない場合は本事業も実施しないという言い方も少し変な言い方だと感じている。我々が頑張っている若い人たちを後押しするかどうかを決めるという問題である。現状からみて、プロ野球などでもやっと観客を入れての開催が解禁されたばかりであり、イベントについても細心の注意を払わなければならない。クラウドファンディングで資金を集めたり、SNSで情報を拡散して宣伝すれば、県をまたいで観客がやってくる。今までの観客の規模とは全く違う規模の観客が来ることになる。私は自分の良心から時期を見送るべきだと思って申し上げているが、全体の意見として採択となれば、それに従う。

【松苗正二会長】

他に御意見はあるか。

(意見なし)

これまで吉野委員、山岸委員、中村委員、小松委員、外立委員から意見が出された。概ね採択をしたうえで灯の回廊が中止となった場合は、本事業も中止とすればよいという意見と新型コロナウイルスの感染が広がる現状において採択すべきでないという意見の2つに分かれている。

私が口を挟むべきではないかもしれないが、基本的には今の新型コロナウイルスの問題は大変難しい問題である。その中で上越市が灯の回廊を実施するという決定をしてい

くのであれば、本事業を実施したとしても問題となることはないと思う。国がG o T oキャンペーンなど観光に力を入れている今の状況であれば、前向きに考えていくことも1つの考え方だと思う。今以上に感染が広がり、状況が悪化していくとすれば、国及び上越市の方針も変わっていく。状況の変化に応じて改めて議論するということも必要ではないかと思う。

色々な意見が皆さんから出されたが、新型コロナウイルスの問題により、事業を採択すべきでないという意見と採択をしたうえで市の意向を踏まえて実施の可否を判断すべきだという意見の2つで採決をとることとしたいと思うが、いかがか。

まず新型コロナウイルスの関係で責任などの問題もあるので採択すべきでないという方は挙手をお願いしたい。

(2名挙手)

次に採択し、国及び上越市の方針に基づいて実施の可否を検討していけばよいと思う方は挙手をお願いしたい。

(9名挙手)

挙手が多数のため、採択としたい。

【山岸重正委員】

国や市の判断に基づいてと言うが、市が実施しないとなった場合、どうなるのか。

【松苗正二会長】

現状よりも状況がさらに悪化した場合、国や市において議論する場が出てくる。そうなった場合は、本事業も中止となる。それはこれまで採択してきた他の事業についても同様である。当初募集における審査の中でも、提案のあった内容について、新型コロナウイルスの問題などで実施ができなくなった場合は中止となるということで議論してきたと記憶しているが、事務局はその点についていかがか。

【岩野所長】

市の現状について、説明させていただく。コロナ禍の中、感染拡大防止が求められる一方で経済活動の維持も考えていかなければならない状況である。

市が主催するイベント、会議に関して7月20日に新たな方針が示されたところである。20日以降については、収容人数の50%において、状況に応じた対応策を講じたうえで開催が可能となっている。民間団体が開催するイベント等については、市から強制できるものはないが、ご相談があれば今ほどの市が主催するイベント、会議における

対応について積極的にご案内を行っていく。

今回の提案事業についても、行政や会場を管理する㈱スマイルリゾートと連携しながら事業を実施すべく検討されているところである。そのときの状況に応じて、市がとる対策に準じていただきながら事業を実施してもらえればよいのではないかと考えている。

また採択にあたっては、附帯意見をつけることが可能となっており、状況に応じた対策を検討したうえで実施すること、などの意見を付すことができる。開催する時期に爆発的な感染が起きていたり、市が灯の回廊を中止とした場合はそれにあわせて本事業も中止とするといった附帯意見を付けてはいかがか。その辺りを参考にさせていただきながら決定していただければと思う。

【松苗正二会長】

事務局から説明があったが、これについて質問等あるか。

【吉野誠一委員】

附帯意見についての質問か。

【松苗正二会長】

全般についてで構わない。附帯意見については、改めて検討を行う。

(質問なし)

事務局から附帯意見を付けて、採択してはどうかという説明があったが、これについて採決を行う。

【中村真二委員】

附帯意見をつけることについてか。

【松苗正二会長】

附帯意見をつけることについてである。

【吉野誠一委員】

先ほどの内容とは別の附帯意見でもよいのか。

【松苗正二会長】

別の附帯意見でもよいが、附帯意見についてはまた後ほど採決を行う。まずは採択をするかどうか採決する。

【吉野誠一委員】

先ほど反対は2名しかいなかった。

【松苗正二会長】

先ほど採択9名、不採択2名であったが、山岸委員から意見が出されたため、改めて採択をするかどうか協議を行っている。採択としてよろしいか。

（「はい」の声多数）

【山岸重正委員】

附帯意見について初めから話してもらえば良かった。事業を実施することについては私も賛成である。

【松苗正二会長】

今の採択は初めの採択結果を受けて山岸委員から意見が出されたため、改めて採決を行ったものである。附帯意見をつけるかどうかとは、別の問題である。御意見に基づいて、再度採決を行った。採択ということをお願いしたい。

次に補助金額についてはいかがか。

（「補助希望額全額でよい」との声多数）

次に附帯意見についてはいかがか。

【吉野誠一委員】

ソーシャルディスタンスの確保や市が求めている対応策の実施について、非常に困難であると考えている。検温器は1つくらいしかないであろうし、マスクの装着の確認、体温が高い人が出た場合に保健所との連携をとることも難しいと思う。したがって、本事業を実施するためにできることは観客数を決めることである。例えば200人として、事前予約制で200人に達した時点で応募を終了する。そういった対策でもしない限り観客のコントロールはできない。また、密につながる福男レース及び屋台を中止する。この2点を附帯意見としてつけてもらいたい。

【小松光代委員】

事業提案書に雪屋台とワークショップは新型コロナウイルスの影響により、中止となる場合もあると記載されている。

【吉野誠一委員】

中止もあり得るとされているだけで、私は中止すべきと言っている。

【小松光代委員】

提案団体も状況を鑑みて実施するかどうか判断するはずであり、附帯意見として記載しなくても承知されていると思う。

【吉野誠一委員】

新型コロナウイルスの影響で実施するかどうか判断するというのではなく、私は最初から除外すべきと言っている。

【松苗正二会長】

吉野委員からソーシャルディスタンスの確保について、無理があるため、観客数の上限を設けることと、密につながる屋台及び福男レースを事業内容から除外すべきとの意見が出された。この意見について協議を行いたい。

事業実施に当たり、観客数を決めるべきだと考える方はいるか。

【松野修委員】

上越市の方向性としては人数、住所、氏名を把握するように求めているのではないか。

【岩野所長】

貸館等の利用者については、利用者名簿の作成または団体の代表者名を記録し、必要に応じて連絡が取れるようにしている。しかし、大人数のイベントについて、屋内で開催するイベントは収容人数の50%に留める、屋外についてはソーシャルディスタンスの確保などの対策をとったうえで開催するように方針を定めている。

【松苗正二会長】

キューピットバレイスキー場など屋外の人数制限などはあるのか。

【岩野所長】

野外でのイベントのため、何人までとは申し上げることができない。具体的な人数制限については相談のうえで決めるしかないのではないか。これまでの来場客数を踏まえて、コロナ禍の中で人数制限を設けるということも1つの対策ではないかと考えている。

採決の中で、地域協議会としての意見が反映されないということが周囲に対しての問題点であるとの御意見があったが、その点については附帯意見をつけることにより、地域協議会が関心を持っているということを外部に示すことができるはずである。附帯意見については、慎重に検討いただければと思う。

やる気をもって若い方々が事業を計画してきていただいているが、制限が多くなると、やる気が失われてしまう面もある。どの辺りに着地点を見出すか、委員の皆さんから協議いただきたい。

【松苗正二会長】

事務局から附帯意見の中に条件等盛り込んで事業を進めてもらえればという話があっ

た。事務局としても今後、提案団体と新型コロナウイルスへの対策等協議をお願いしたい。

全体の意見を踏まえ、上越市、(株)スマイルリゾートと協議を重ね、事業の実施に向けて検討を進めていただくという附帯意見をつけることでよろしいか。

【吉野誠一委員】

附帯意見をつけるかどうかを事務局と協議するというのを地域協議会が決めるのか。

【松苗正二会長】

我々が持ち合わせているものをもって、地域協議会の中で人数を決めるというのは、非常に困難である。今の日本の状況の中で、どの程度の規模のイベントが妥当であろうという判断は市の観光交流推進課や総合事務所から判断いただく方が適切であると思う。

【吉野誠一委員】

私が予約制にして人数制限を設けるべきと申し上げたのは、本事業のスタッフが7人と記載されているからである。7人で管理できる観客数とは一体どれくらいなのか。他の補助スタッフ等を含め、例えば30人としても何人の観客をコントロールできるのか。我々が人数など出すことはできないが、自分たちが責任をもって管理できる人数を自ら設定するよう附帯意見として付けるべきではないか。

【松苗正二会長】

吉野委員から御意見が出されたが、皆さんの御意見はいかがか。

【池田裕夫委員】

人数を確認、管理するのは非常に困難ではないか。須川の地元の方、その日に来た親戚、友人、知人、全てを把握することはできない。附帯意見として、簡単に人数を決めることは難しいが、人数を抑えるよう求めることも必要であると思う。それ以上のことを我々が今言うことは難しいのではないか。

【松苗正二会長】

今ほど人数を決めることは難しいのではないかという池田委員の意見があった。我々としても新型コロナウイルスの問題を大変危惧し、住民の健康を第一に考えなければいけないことは当然のことである。しかし、その中で地域協議会としてどこまで踏み込んで決めることができるかという、なかなか難しいことである。本事業を実施する方向とするかどうかということをもまず地域協議会で決めさせていただいたので、ここから先のことは関係団体と十分に協議を重ねるよう求める附帯意見をつけることしかできない

のではないかと私は考えているが、皆さんいかがか。

【外立正剛委員】

松苗会長が言われたとおりにした方がよいと思う。地域協議会で人数を決めることは困難であり、まだ時間もあるので、関係団体との協議を重ね、対策等の検討を進めていただければよいと思う。その協議の結果を地域協議会にも報告いただければよいのではないか。報告を受けたうえで必要に応じて地域協議会から再度意見を伝えればよいと思う。その点、事務局としてはいかがか。

【岩野所長】

附帯意見で人数制限は設けなくて、ソーシャルディスタンスを確保したうえでコントロールが可能な人数に抑えることとして、主催者と関係者の自主的な判断をとってもらえればよいのではないか。コロナウイルス感染防止のための責任が地域協議会にはあるとの御意見もあったが、それと同時に地域の施設を活かして集客をすることを目指して計画した地元の若者たちの意欲を高めてあげることも地域協議会としての責任としてあると思う。ある程度の自主性を持たせて、提案団体自らで検討するよう求めることも重要ではないか。市としても提案団体と協議を重ね、事業を実施できるよう協力していきたい。

【吉野誠一委員】

もし、万一に備えて追跡調査がどこまでできるのか、その仕組みを考える必要があると思う。附帯意見として付けられないか。

【松苗正二会長】

吉野委員から追跡調査でどこまで把握できるのかという御意見があったが、名簿の管理等により、対応していくことになるのではないか。

【岩野所長】

この場で具体的などころまでは申し上げられないが、例えば参加費は無料でも参加者から事前に応募いただく形式をとることで、万一感染者が出た場合にどこの誰かということを追跡し、濃厚接触者を特定することも可能になるのではないか。国の緊急事態宣言が解除されて、スポーツ観戦なども制限を設けたうえで開催されるようになってきており、危険性は伴うがそれだけに縛られてしまうと世の中も苦しくなっていくように思う。地域協議会が本事業を採択しても、附帯意見をつけることで地域協議会に対しての責任論にはならないと思う。細かい部分で検討していかなければならない部分もあるが、

時間もあるので協議を重ねて詰めていきたい。

【松苗正二会長】

これまで出てきた意見を踏まえて、附帯意見をまとめることとしたい。まず1点目は、「各関係団体と協議を重ね、中止も含めて検討を行い、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を徹底すること」とする。2点目は、「協議の結果について、地域協議会に随時報告し、必要に応じて、地域協議会から意見を付す」こととする。以上の内容でよろしいか。

（「はい」の声多数）

以上で2団体の提案事業についての審査が終了したので、事務局に審査結果の報告をお願いします。

【萬羽主事】

本日の審査の結果、提案のあった2事業ともに採択することとなった。

提案事業ごとに補助金額と附帯意見の有無について報告する。

『菱里地域の宝ものを伝えよう』は補助金額20万円で附帯意見なし。

『山のうえの雪まつり事業』は補助金額93万円。附帯意見は、「各関係団体と協議を重ね、同日開催の市主催イベントの内容を十分踏まえたうえで、中止も含め検討を行い、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を徹底すること」、「協議の結果について、地域協議会に随時報告すること。必要に応じて、地域協議会から改めて意見を付したい」の2点である。

【松苗正二会長】

続いて、安塚区地域協議会としての審議内容について、確認を行う。事前に事務局へ審議依頼書の提出はあったか。

【大橋次長】

事前の提出はない。

【松苗正二会長】

今回審議依頼書の提出はなしということで、審議依頼事項がある場合は、また次回協議会開催日の1週間前までに事務局へ提出をお願いしたい。

次に4その他(1)次回協議会の開催日について、通常であれば次回は8月25日(火)午後7時から開催となるが、その日程でよろしいか。

（「はい」の声多数）

次回は8月25日（火）午後7時から開催とする。

その他、何か連絡事項等はあるか。

【萬羽主事】

第3回地域協議会で問合せのあった下記事項について報告。

- ①久比岐野の浴室改修工事における浴室の規模等
- ②避難所における新型コロナウイルス感染症対策の周知方法
- ③令和元年度安塚区市道除雪費の実績

【松苗正二会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

安塚区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-592-2003（内線23）

E-mail：yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。